



北海道子ども読書応援団ニュース

ゆめ*よみ

北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課
社会教育・読書推進グループ

TEL: 011-204-5994

FAX: 011-232-2236

「地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業」

北海道教育委員会では、平成30年度より実施している「地域人材との連携による子どもの読書活動推進事業」について、これまでは、1日日程のフォーラムを開催することが主な取組でしたが、令和2年度からは、内容を拡充し、右の表のとおり、小中学校と市町村立図書館が連携を図り、「学校図書館を活用した授業」や「学校図書館の環境整備」などの取組を行い、域内における子どもの読書活動の充実を目指します。

また、取組の成果などは、事例集として全道に普及・啓発を図ります。

小・中学校と市町村立図書館との連携

道内14管内で、1年間、小・中学校1校を指定校にするとともに、指定校と域内の市町村立図書館が連携を図り、子どもの読書活動の推進を図ります。

小・中学校

- 【学校図書館の活用】
- (ア) 学校図書館を計画的に活用した授業実践・公開研究発表会の実施
 - (イ) 校内ビブリオバトル大会などの読書活動
 - (ウ) 全校一斉読書
 - (エ) 学校図書館の環境整備
 - (オ) ボランティアと連携した読書活動の実施
 - (カ) 家読の働きかけ

市町村立図書館

- 【市町村立図書館】
- (ア) 学校図書館を活用した授業支援
 - (イ) 図書館司書によるビブリオバトル、ブックトーク、読み聞かせの実施
 - (ウ) 全校一斉読書の支援
 - (エ) 学校図書館の環境整備
 - (オ) ボランティアとの連携
 - (カ) 保護者への読み聞かせ講座等の実施

※道立図書館による市町村立図書館支援

各地の子ども読書応援団の取組紹介

「心豊かな子供たちの育ちを願って」 読み聞かせサークル「おはなしの木」 (中標津町)

自分たちで読み聞かせをしたいという思いを持ったお母さんたちが集まり、平成6年10月から中標津町図書館において会を結成し、活動を始めた読み聞かせサークル「おはなしの木」。絵本を通して、本の楽しさを広め、心豊かな子供たちが育つことを願い、現在10名の会員で楽しく活動しています。

「おはなしの木」の活動としては、図書館でのおはなし会のほかに、平成10年からは小学校や保育園にも出向いて読み聞かせを実施し、子どもたちが本に興味を持ち、読書習慣を身に付けるきっかけづくりになることを意識して行っています。また、北海道子ども読書応援団に登録するとともに、子育て支援サークルや老人クラブ等でのおはなし会、教育委員会の実施するブックスタートでの読み聞かせ実践なども行っていることから、「地域への積極的な貢献や協力が顕著であり、活動の幅が多岐にわたる。」として評価いただき、本年度、優良読書グループ全国表彰をいただきました。

今後も、地域と学校の連携や協働という視点を大切にしながら、活動を継続していきたいと考えています。



【「おはなしマラソン」を楽しむ子供たち】

「工夫・改善を意識した取組の実践」 おはなしポケット（厚沢部町）

「おはなしポケット」は、町内の小学校において有志により読み聞かせ会を開催したことをきっかけに、平成14年に発足し、現在5名の会員で活動しています。

小学校を中心に、認定こども園や老人ホームなどにおいても読み聞かせやブックトークなどを行っているほか、町教育委員会主催の「図書館まつり」や「クリスマス読み聞かせ会」などの運営にも関わり、地域における読書活動推進の一翼を担っています。

また、活動に当たっては、参加してくれた全ての方が本にもっと親しむことを目指し、活動の工夫・改善を意識して取り組んでおり、新しい試みにも積極的に挑戦しています。

そのような中、平成20年には、地域に根ざした活動が評価され、優良読書グループ北海道表彰を受賞しました。

今後は、活動の範囲や内容を広げていくことも検討中であり、次年度にはコープさっぽろと連携した読書活動に取り組む予定です。



【体をいっぱい動かします！】



【小さな本をテレビに映します！】

「みんなが主役！！子どもたちの笑顔が、自分たちの笑顔に」 おはなし会「きらら」（北斗市）

おはなし会「きらら」は、平成18年の町合併を契機に読書ボランティアとして活動していた方々を中心に組織されました。名前の由来は、北斗市が北海道水田発祥の地であることから、北海道米の名称からとって「きらら」と名付けられ、現在は7名で活動しています。

主な活動として、北斗市のブックスタート事業があります。赤ちゃんと保護者を対象に読み聞かせを行うことにより、親子の温かなコミュニケーションの場を提供しています。また、月1回、保育園と公民館で定期的に活動している他に、学校や学童の要請に応じて「おはなしひろば」を開催しています。

代表の武安さんは「新しいことにチャレンジしながら、子どもたちが楽しめるよう全力投球していきたい。仲間同士が楽しく活動していることが、子どもの笑顔につながっていると思う。」と話してくれました。また、会員の皆さんからは「本の選書にメンバーの個性が表れて、絵本を通して興味が広がっている」「家での練習や、読んだ本の記録をしており、子どものための活動が自分の楽しみになっている」等の声をいただきました。

昨年12月に、市内で活動する読み聞かせ団体と合同で開催した「童話のつどい」には、約150名の市民が来場するなど読書活動が市内に広く浸透しています。

現在は、4月の「図書館祭り」に向けて準備を進めており、ペープサート（紙の人形劇）に挑戦するとお話しいただきました。



【保育園での読み聞かせ・手遊び歌の様子】

「目の不自由な方々や高齢者にも読書を楽しんでいただきたい！」 「声の図書館-そよかぜ」（網走市）

網走市の朗読ボランティア団体「声の図書館-そよかぜ」は、図書館と協力し合いながら、目の不自由な方や高齢者、子どもたち等を対象に、朗読や読み聞かせなどを行っています。

現在、会員は11名で、図書館のボランティア室を拠点にして活動しています。主な活動内容は、

- 管内に配付されている情報紙や市役所の発行物、社会福祉協議会のおたより等の録音テープ、CDの作成（要望に応じて定期雑誌などを録音して送付しています。）
- 図書館で目の不自由な方や高齢者、一般の方を対象とした「大人のためのミニ朗読会」の実施（毎月の作品名は、市の広報紙を通じて市民の方々にお知らせしています。）
- 図書館や子育て支援センターで、親子を対象とした読み聞かせの実施
- 介護施設やケアハウス、福祉施設などへの訪問朗読
- 点字文への訳や点字文の訳
- 紙芝居の作製

など、様々な取組を行っています。

また、図書館友の会会員としての活動や朗読講習会への参加など、メンバーの皆さんは協力し合いながら生き生きと活動し、絶えず技術の向上に励んでいます。

市のホームページにも、活動内容や会員募集のお知らせなどが掲載されていますので、是非御覧ください。



【網走市立図書館での読み聞かせの様子】

「読書が人と人をつなげる」 絵本の会「おひさまはらっぱ」（小樽市）

絵本の会「おひさまはらっぱ」は、「読書の喜びを全ての子どもに伝えたい」と小樽市銭函地区の母親たちが中心となり、平成14年12月に発足しました。現在は18名の会員が銭函小学校のほか、近隣の小学校や子育て支援センター、福祉施設などで読み聞かせやおはなし会を開催するなど活動場所を広げています。

「世界」をテーマにした秋のおはなし会は、絵本や紙芝居のみならず、エプロンシアターや人形劇、ピアノ演奏に合わせて身体を動かす遊びなど会員一人一人の特技を生かした内容で構成し、子どもたちをおはなしの世界に引き込んでいました。

また、会員は学校図書ボランティアとして本の整理や環境の整備も行い、子どもたちが本に対する関心を高めたり、読みたい本を見つけやすくしたりするなど学校教育と連携した取組も進めています。

この夏には、かつて読み聞かせ会に参加していた子どもが成人となり、読み聞かせを行うなど、長年の活動が人と人とのつながりを生み出しています。代表の松本依子さんは「これからも、会員が無理をすることなく活動を続け、仲間とともに子どもたちへ本の楽しさを伝え続けていきたい。」と話していました。



【世界の様々なおはなしを紹介】



【手作りのエプロンシアター】

“本はともだち”

家庭文庫「みみずく文庫」(白老町)

「みみずく文庫」(会員数4名)は、平成7年(1995年)に、白老町内在住で、北海道内の短大の図書館で勤務した経験もある山下麻理子さんが開いた家庭文庫です。

毎月2回、活動に賛同する会員とともに、選び抜いた約4千冊の絵本や児童書の貸し出しや読み聞かせを行うなど、地域の子どもとその保護者が本に親しめる場と機会を提供しています。

時には、利用会員の母親から、子育ての相談を受けることもあり、「一緒に悩むことが大切」と保護者に寄り添った姿勢で対応し、子育て経験に基づいたアドバイスもされています。

同文庫では、町内にある2つの児童館で定例のおはなし会を継続するほか、市街地から近い里山では、読み聞かせと音楽をコラボレーションさせたイベント「森のおんがくかい」や世界の昔話や童話などの魅力を伝える「大人のためのストーリーテリングおはなし会」も開催しています。

「本は人と人をつなぐもの」という信念をもち、積極的に地域に飛び出して、読書の楽しさを町民に伝える活動を続けています。

山下さんは、「子どもの時はあっという間に過ぎてしまう。子どもにも媚びず、手を抜かず、一瞬一瞬の子どもと本との出会いを大切にしていきたい。そのためにも、私自身が本を選ぶセンスをもっと磨きたい。」と、今後の抱負を力強く語ります。



【子どもたちの笑顔が活動の原動力です】

「学びを活かした子どもの読書活動推進の取組」 おはなしの会「もこもこ」(留萌市)

おはなしの会「もこもこ」は、留萌市の読み聞かせボランティア団体で、未就学児とその保護者を対象に毎月2回の読み聞かせ会「おはなし玉手箱」を市立留萌図書館で開催したり、市内の社会教育施設等に出向いて「出張読み聞かせ」に取り組んだり、子どもたちが読書活動に親しむための多様な機会を提供しています。

昨年の7月、留萌市内で読書活動を推進している地域指導者を対象に「読み聞かせ講習会」が開催されました。「もこもこ」の皆さんは、8月に行われるイベント「図書館まつり」での読み聞かせ会に向けて、講師を務めたボランティアネットワーク「おはなしそらぷちぺっ25」の高田芳さんから、読み聞かせボランティアとしての役割を改めて確認するとともに、エプロンシアター、パネルシアター、アニメーションなどの手法を通じて、活動における読み手と聞き手の双方向による取組の大切さについて学びました。

「図書館まつり」では、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の多くの市民が市立留萌図書館に訪れ、読み聞かせの際は、いつもより集中して聞く子どもたちの様子が目立っていたことから、「もこもこ」の皆さんは、子どもたちが絵本に、より興味を持つ機会となったことを実感することができました。

今後も、おはなしの会「もこもこ」は、活動に必要な知識と技術を高めることに努め、子どもたちと本をつなぎ、子どもたちに本の楽しさや素晴らしさを伝えていきます。



【図書館まつり 読み聞かせ会の様子】